

# 事例研究報告

## 特別支援学校中学部全体で取り組む 日常生活の指導での自立に向けた取り組み (SWPBS)

## 生徒の実態

- 中学部 1年生～3年生
- 全生徒数 34名(男子 22名, 女子 12名)
- 実態は多様である。スケジュールを活用したり簡単な言語指示を理解して行動したりすることができる。

## 教員の願い

- ・生徒が自立して行動できる場面を増やしたい。
- ・小学部での取り組みと同じ手順で目標設定，グループ別検討会，全体報告会を行い，学部が変わっても継続した取り組みができるシステムを構築したい。
- ・高等部での清掃の手順を参考に，中学部で新たに作成した清掃のチェックシートを使って取り組み，高等部での指導につなげていきたい。

## アドバイザーからの助言(第1回目)

- ①グループ別進捗状況報告会・学部検討会は、記入シートや進め方を小学部にならって取り組み、スムーズに進められているのでこのまま進める。
- ②「見守りあり △」(ひとりでできるが、時々指示が必要な場面がある)を中学部でも記入し、「ひとりでできる」と別に評価する。
- ③清掃のチェックシートは、手順とスキルをわけておくほうがよい。
- ④本年度の取り組みへの感想や意見をまとめておく。

## 助言を受けての見直し(第1回目)

- ①グループ別進捗状況報告会・学部検討会を行い、話し合いの手順やシート記入に慣れると共に、ポジティブな行動支援ができているか確認する。
- ②「見守りあり △」の場合は、備考欄に様子を記入し、現状がわかるようにしておく。

→中学部段階では、「見守りあり △」の項目を、必ずしも「ひとりでできる」まで個別の目標として取り組まなくてもよく、現状把握のために活用するという共通理解しておく。

## 助言を受けての見直し(第1回目)

- ③清掃のチェックシートをスキルと手順にわけて整理し、改訂版として検討する。
  
- ④チェックシートを使用しての個別の指導計画の目標設定や、話し合いのシートを使っての検討会や報告会の実施についてのアンケートをとり、感想をまとめる。

# 指導の手続き(第1回目)

## 【進捗状況検討会】(3グループに分かれて実施)

\* 進行・記録役を決める \* 進捗状況検討会記録用紙に記入

### 1. ほめ方を共有する (3分)

- ・うまくいったほめ方を発表する
- ・一番良かったほめ方を決める

### 2. うまくいっている事例を確認する(5分) \* 記録を見せ合う

- ・各事例の記録を見て、うまくいっているかをグループ内で共有する
- ・指導ポイントや工夫点を伝える

### 3. うまくいっていない事例について話し合う(10分)

- ・グループで1つ事例を選ぶ
- ・ここまではできている、うまくいっている(O)を伝える
- ・次の段階に進むためのアイデアを出し合う

# 指導の手続き(第1回目)

【学部での報告会】 \* 各グループで話し合ったことを発表

- ・発表時間: 3分(時間厳守)
- ・発表者: ①学年主任 ②③事例を出した教員
- ・発表内容:
  - ①ほめ方大賞(共有した中で一番良かったほめ方)
  - ②事例へのアイデア数と印象的なアイデアを1~2個
  - ③その中から今後取り組んでみようと思うこと

\* 2回目の報告会からは、前回発表した事例のその後の様子についての発表も行う。時間は、1グループ30秒。発表者は、前回発表した教員が行う。

# 指導の手続き(第1回目)

## 【清掃チェックシートの改定】

・手順(教室, 黒板, トイレ, 手洗い場)とスキル(ほうき, ダストクロスモップ, モップ等での掃除のやり方)にわけて, 清掃チェックシートを整理して活用できるようにする。

## 【アンケートの実施】

・取り組み全体へのアンケートと, グループ別検討会についてのアンケートを取る。

・よかった点と改善点についてまとめ, 2回目のコンサルテーションで改善点について検討できるようにする。

## アドバイザーからの助言(第2回目)

- ① 中学部の生徒の実態に合わせて、チェックシートの項目の追加や削除を行い、より使いやすいものにする。
- ② 「見守りあり △」(ひとりでできるが、時々指示が必要な場面がある)の基準を小学部と話し合い、共有できるようにする。
- ③ 清掃のチェックシートのチェックの時期とやり方を整理して共有する。
- ④ グループ別検討会の役割分担をし、負担感を軽減するとともに、別の困難事例への相談もできるようにする。

## 助言を受けての今後の見直し(第2回目)

- ①小学部からの日常生活チェックシート(朝・帰り・給食)について、追加や削除等を検討する。
- ②「見守りあり △」と判断する基準を、小学部と一緒に検討し、共通の基準として活用できるようにする。
- ③清掃チェックシートの手順とスキルに関して、対象生徒とチェック時期等について整理し、活用しやすくする。また、手順やスキルの簡易版のシート作成について検討する。

## 助言を受けての見直し(第2回目)

④グループ別進捗状況検討会で調整役，司会役，記録役，タイムキーパー役等役割を決め，グループ内の教員全員で担当をまわして負担を均等にする。

・困難事例について相談時に，簡単な記録を取って相談内容を具体的に準備し，現状や指導内容についてすぐにわかるようにして取り組んでみる。

→記録の取り方のフローチャート化等で事例にあわせた記録が取りやすくなるのではないか。

# 指導の手続き(第2回目)

## 【チェックシートについて】

- ・日常生活チェックシート(朝・帰り・給食)の追加や削除項目について検討し、改定する。
- ・清掃チェックシートについて、「手順」については生徒全員をチェックし、「スキル」については必要とする生徒をチェックするようにする。
  - どのタイミングでスキルのチェックシートを見たらよいかを検討する。
  - 3年生は高等部への引き継ぎもかねて、全員チェックしてもよいのではないか。
  - 簡易版チェックシートの検討。

## 指導の手続き(第2回目)

### 【教員アンケートより】

- ・グループリーダーに負担が偏らないために、役割分担をする。
  - 司会の手順などしくみを整える。
  - 役割をまわして、いろいろな役割が経験できるようにする。
- ・本当に困っている事例について、検討会で話し合えたらいい。
  - 1グループ4～5名にし、時間以内で検討できるようにする。
  - 記録を取って検討会に出す、という形をとり、効率よくアイデアが出しあえるようにする。

# 指導の成果①

## 〈生徒の成果〉

- \* 行動観察チェック表を参考に立案した日常生活（朝・帰り・給食）または清掃の指導における個別の指導計画の目標の達成度が、前期目標では79%、後期目標では85%であった。
- \* 朝・帰り・給食、清掃の活動において生徒がひとりでできる活動を増やすことができた。



## 指導の成果②

### 〈教員の成果〉(アンケートより)

#### ①日常生活・清掃チェックシートの活用

- ・チェックをすることでできているかできていないかがよくわかった。
- ・小学部よりあがってきたデータと高等部より取り入れた手順やスキルを中学部の生徒に有効に活用できたこと。
- ・個別の指導計画とリンクしていて、目標設定がやりやすかった。

# 指導の成果②

## 〈教員の成果〉(アンケートより)

### ②記録(グラフ)の効果

- ・成果が視覚的に確認でき、意欲が向上した。
- ・活用方法が単純明快で、あまり経験のない職員でも活用しやすかった。
- ・児童の伸びや指導改善のタイミングが掴みやすい。

### ③進捗状況検討会・学部報告会

- ・短時間で効率的な検討が行えた。
- ・行き詰まったときなどに様々なアイデアをだしあうことができ、他の生徒の指導の参考にもなった。
- ・グループ内で共通理解ができ、普段あまり関わりのない生徒の様子がわかったこと。
- ・授業改善につながった。

# ここが成功のポイント

## ★共通のツールで同時期に評価をしたこと

- ・日常生活・清掃チェックシート, 記録(グラフ)  
→指導の成果が見える形になったことで, 達成感にも繋がる

## ★既存の枠組みの中で取り組んだこと

- ・個別の指導計画・実践報告と関連
- ・負担感の軽減

## ★小学部での取り組みをそのまま中学部に移行したこと

- ・ノウハウをそのまま使えることでのスムーズな実施が可能になった

## ★ポジティブな話し合いを通して, 学部全体で話しやすい雰囲気作りができたこと